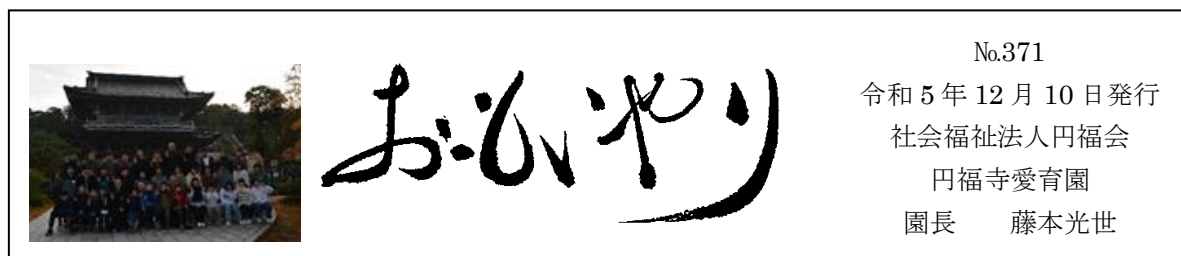


今月は、創立 75 周年記念式典と總持寺祖院修行の旅がありました。



創立 75 周年

園長 藤本光世

創立 75 周年記念式典を約 110 名の皆さまにおいでいただき、円成することができてほっとしています。その裏には、職員の献身的な働きや、児童の一所懸命な手伝いがありました。感謝しています。幾つか、裏話を書きます。

式典準備

10 月 29 日まではカンボジア支援旅行で何もできませんでした。

30 日から準備を始めようと思っていたら、ご葬儀が入ってしまい 31 日まで何もできませんでした。

1 日は、第 68 回長野県仏教徒大会南長野大会で、私は実行委員長で一日中ホクト文化ホールでの大会でした。とても疲れていたもので、午前中は座席に座って事務局の皆さまの準備を見守るだけでした。事務局長の眞龍寺さまありがとうございます。大会で二度の挨拶がありました。実行委員の皆さまから、会長の今日の挨拶は良かったと褒められました。何が良かったのと聞いたら、短いのが良かったって。

2 日は職員会とコミー（株）創立 50 周年記念式典で東京泊、3 日は大圓寺さまでの講演で東京から上田へ直行（月岡先生ありがとう）、4 日はご法事、5 日は退職高校長会県総会と続き、名簿作りの準備から始めたのが 6 日でした。これに一日かかりました。

4 日間で式典の準備（主賓・役員の駐車場の決定と駐車券送付、除幕式と式典の椅子の配置と席順、除幕式の方法、写真撮影の方法、道路から体育館へのスムーズな移動の方法検討、受付方法、はきもの係方法、式典内容の決定と時間配分、扇子演舞の位置と内容、お見送り等の方法決定）をしなければならないのは、ぎりぎりでもっともたいへんだったのです。でも、富沢式典委員長、高橋庶務をはじめとした職員の献身的な協力により、除幕式、記念写真撮影、体育館へ移動、式典、扇子演舞の盛りだくさんな内容を 2 時間半で滞りなく出来て、しかもおいでになった皆さまに「感動しました」「涙が出ました」「とても良かった」と言っていただくことができました。ありがとうございます。人手が足りなくて、急遽移動の指示役を引き受けていただいた柳澤明さまや、西横田の皆さまありがとうございました。

主催者挨拶

主催者挨拶をどうしようかと考えました。多くの式典で主催者は式辞を書いてそれを読みます。私も、どうしようかと一度文章にしてみました。しかし、どうも心が入りません。富沢式典委員長から「園長先生の挨拶は、読まない方が絶対に良い」と言われ、文章を作る時間ももったいないので、書いた文章は無しで臨むことにしました。

あいさつの内容を二つに絞りました。

一つは、お母さんの献身です。「献身」こそ子育てに無くてはならないものと思いました。

もう一つは、社会的養護の目的についてでした。社会的養護に目的がない。それが、福祉時代の課題（記念誌 15 p）をはじめとしたさまざまな混乱を生み出しているように思いました。目的と目標は違います。このことを圓福 12 月号のニコニコ法話に書きました。何のために家庭的養護を推進するのか、里親委託を推進するのか、家庭に近い形態で養育することが望ましいというのはなぜか、それに児童の最善の利益とは何でなぜか、そしてそれが何のためかということが全く答えられていないのです。それを私は、そうすれば措置費が来ると、国の施策に無批判に唯々諾々と従っている、こう言うのは失礼だったかもしれませんが、戦前の軍国主義に盲従した国民と同じではないかと話しかけたのです。こんなことを書くと批判がありそうですね。でも、施設の高機能化多機能化機能転換とかフォスタリングとか、いろいろと難しい言葉を使って、施設の在り方を美化していますが、一体それは何で、何のためで、本当に出来るのかどうかは、示されていないのです。事実が示されていない。子育ての仕事は、当園のように子ども集団を職員集団が養育する形で、見える化して、互いによく話しをして、やってみて、何度も失敗して、実践の中で学び養育力を高めるしかないのです。言葉では伝わらない。いくら言葉を尽くしても、百聞は一見に如かずどころか、一見にもならないのです。その証拠は、施設に回覧されるたくさんの研修と講演の講師が、施設の子育ては出来ないことで明らかです。私は、生まれた時から児童養護施設の子どもたちと育ち、そして 16 年の施設長の経験からそれらを骨身にしみて嫌と言う程知っているのだからこのように話したのです。その付けと言うか被害を被るのは子どもたちであり、その結果は十年後ほどの未来に表れ、その時に施策を推進した人は誰もいないのです。責任をとれない。だから、まず目的を明確にし、「社会的養護は子どもを幸せにするためにある」と訴えたのです。

山口元長野県教育長は、私の長野南高校教頭時代の上司（校長）であり、それ以来さまざまな温かいご指導を頂いています。先生は、長野県退職高校長会（胡蝶会）の会長であり、私は事務局長です。5 日の総会で横に坐ったときに思いついて「先生、記念式典においでいただけませんか」とお願いしました。快諾していただきました。先生から「主催者挨拶は出色で、あのようなあいさつを始めて聞きました。」と褒めていただきました。嬉しかったです。

式典の主催者挨拶は養育の柱を語り、今後の養育の方向を示さなければならないと思います。

この機会を活かして大勢のご来賓を前に決意をお話しできたことは、望外の幸せとなりました。たくさんの課題を背負った子どもを「幸せにする」ことは、実は容易ではないのです。本当に容易ではない。それに取り組んでいる当園の職員に敬意を表します。目的が明確になれば、養育方法も明確になります。具体的な目標が立ちます。円福寺愛育園は子どもを幸せにするために、更に進化しますよ。皆さんみていてください。

円福寺愛育園は養育を開き、養育の事実で社会に問います。75周年記念式典の子どもたちの姿も、その一つでした。大勢のご来賓の前で心を込めたおもてなしや立派な演舞を成し遂げた子どもたちは達成感に満ちていました。それは子どもたちの自信になり、幸せへの布石となるでしょう。そんな子どもたちを育てることができていて、そして皆様にお見せすることができて、私は今の円福寺愛育園の職員と子どもたちを誇りに思っています。

75周年記念式典を終えて

主任指導員 T・M

先日、創立75周年の記念式典を無事に終える事ができました。私は、この式典を絶対に成功させたいという思いで臨んでいました。なぜかという、子ども達を見守り応援し、関心を持ってくださる人が一人でも多くいてもらいたい(増やしたい)という思いがあるからです。若い頃は、あまりそういうことは思いませんでした。むしろ、子ども達の支援や養育をしていく事が私の仕事の本分であって、こういった式典に力を注ぐ事は、子ども達の立場や観点から見ると、あまり意味の無い事と捉えていました。しかし、5年前の70周年式典の時には、子ども達の成長や変化が嬉しくて、その頑張りやひた向きさや純粋さを多くの人達に見てもらいたいという思いが出てきた事をきっかけに式典の機会が子ども達を成長させるための重要な機会になると思うようになりました。また当時、式の運営や準備が滞っている様子に心配を感じられた園長先生が、出席者名簿の確認から受付方法や式の段取りに至るまで一気に指揮を執り、わずか数日で、気持ちよく失礼なくお客様を迎え入れられる状態を作り上げてしまった様子を見て、ただ「子どもの成長をみてもらいたい」と思っているだけの私と、その成長の様子がより伝わりやすいように、式に出席して下さる方への配慮を考える園長先生とでは、おもいやりの深みが違う事を感じ、反省した事を覚えています。

また、そんな思いに加え、日々子ども達と過ごしていると、子ども達を支えてくれる手はより多くあった方がいいという思いに駆られ、その為に尽力する事もまた大事な事であるという思いが生まれてきました。園の職員が辞めずに長年勤めてくれる。学校の多くの先生が園の子を気にかけてくれる。地域や関係者の方々が園の子ども達を見守ってくれる。その事が、大きな安心感や自信につながります。しかし、断続的ではいけません。

それはかえって子ども達の心に傷をつけてしまいます。継続的に、いえ永続的に関わってくれる

多くの大人が一人でも多くいる事が大事だと思っています。

そんな想いで式典準備を進めていくと嬉しい事が沢山ありました。まず子ども達が式典に向けて嬉しそうに楽しそうに準備をしてくれた事です。扇子演舞の発表練習はもちろんの事、駐車場係、受付係、案内係、それぞれ係分担をお願いすると、来賓役と係役に分かれてシュミレーショ



円福寺愛育園 創立75周年記念式典 令和5年11月11日

ンを始め、スムーズに進行できるようにミーティングをしてくれたり、子ども達の前向きな気持ちが伝わってきました。続いて先生方です。私はこう思っていました。「若手の先生方は、若い時の私と同じできっと、式典に対する思いは薄いだろうなあ、、、しかしこれは強要するようなものでもないよなあ、、、基本的には自分が段取りしていかないとなあ、、、」と。しかし、そんなことありませんでした。庶務のT先生はあっという間に受付名簿や座席札を作ってくれて、度重なる変更にもこれまたあっという間に対応してくれるし、あおぞらホームのY先生は除幕式が華やかになるようにアイデアを考え実行してくれたり、私が見落としていたお地藏様前の草取りを子ども達を引き連れてやってくれたり、それ以外にも多くの先生方が想いを共有して行動してくれた

事に物凄く感動すると共に、愛育園の強さを感じました。

式典の行事を通して、子供も職員も有難い経験を積ませて頂き、また一つ成長する事ができたように感じます。そして、もう一つ大事な事に気づきました。今回の式典に向け準備を頑張ってくれた子ども達や先生方は、きっと愛育園に愛情があって、誇りがあってという事を表しているのだと思います。愛育園がそういう場所になっている事が私はすごく嬉しく思います。もっともっとそういう気持ちを膨らませたり、そういう人を増やしたいです。



この「おもしろい」も、読んでくださる皆様に、ずっと愛育園を応援し続けてもらいたい！という私にとって、とても大切な場でございます。これからも子ども達の成長を沢山お伝えしてまいりますので、どうか円福寺愛育園をよろしくお願いたします。

創立 75 周年記念式典

まごころホーム長 I・S

11月11日は円福寺愛育園創立75周年記念式典が行われました。式典には円福寺愛育園を支え、応援して下さる多くの皆様がお越し下さりました。本当にありがとうございました。子どもたちも記念式典に向け、来ていただいた方をお出迎えするための準備を行って来ました。まごころ中高生は当日受付と下駄箱を担当しました。100名以上の方々に来てくださいますので、出来るだけスムーズに対応できるよう練習を行いました。来賓の方につけていただくリボンもどうやったら丁寧に早く付けられるか子どもたち同士で試行錯誤しながら練習していました。当日子どもたちの表情はどことなく緊張していましたが、「おはようございます」と声を出すたびにだん



だんと緊張もほぐれ、一生懸命自分の任されたことを頑張っていました。また下駄箱も出来るだけスムーズに靴を預かり体育館にご案内出来るように何度も何度もシミュレーションしました。前列は靴を預かる、後列は前列から靴を受け取り決められた下駄箱に置く、などお互いが協力することも重要だったためそういったことも考えながら一生懸命頑張っており、子どもたちはとても良い経験

ができたと思います。

また子どもたちは記念誌も一生懸命書いていました。「愛育園で生活して成長したこと」をテーマに書いてみよう！と、だけ子どもたちに投げかけてみたところ、それぞれ自分自身を振り返り、考えながら書いていました。思った以上にスラスラと書けていたことにびっくりしましたが、

内容も自分の頑張っている事や、成長した部分を書けており、自分のことを理解できるようになったことや、自分の頑張りを自分で認めてあげられるようになってきたことに、子どもたちの成長を感じ嬉しかったです。

また私自身もこの75周年を迎えにあたり、円福寺愛育園に来てからのことを振り返り、そして自分のやるべきこと等を見つけることができました。

これからも子ども達が愛育園の生活を通して、様々な経験をしながら成長できるよう支えていきたいと思ひます。



創立 75 周年記念に寄せて

あおぞらホーム Y・S

11月11日、円福寺愛育園創立75周年記念式典が開催されました。

自分が入社した年に70周年記念式典が開催されたことをついこの間のように思い出し、あっという間に5年の月日が経ってしまったな、はたしてこの5年で自分は成長できているのだろうか。と思っています。

式典の前日に信濃毎日新聞に大きく75周年であることが載り、さらに後日式典の様子も掲載されていました。その反響は大きく、自宅の近所の人たちや親戚など園とは直接関係ない自分の周辺の方々からも「新聞見たよ」「感動したよ」「昔、園長先生の講演を聞いたことがあるよ」など様々な前向きな声を掛けられ、改めて愛育園の職員であることに誇りを持ちました。そして、これからもその伝統を汚すことなくさらに成長し80周年を迎えられるようにしていかなければならぬと決意を新たに全力を尽くす所存であります。

創立 75 周年記念式典に寄せて

あおぞらホーム K.A

11月11日に創立75周年記念式典が開催されました。式典に合わせて作成した記念誌は、職員それぞれが寄稿し、関係者各位にも執筆を依頼し、完成したものです。完成した記念誌を手を持ったとき、75年の重みを感じ、とても感動したことを覚えています。



当日は、『おかあさん』の銅像の除幕式から始まり、厳粛な式典が遂行されました。来賓の方々のお話からも、『おかあさん』や当園の歴史を紐解くことができ、とても貴重な経験が出来たと思ひます。当日、当園にご来場いただいた来賓の皆様がお帰りになる際、子供たちに声をかけてくださっている姿を見て、当園は様々な方に支えられているのだと、改めて感じる事が出来まし

た。

このようなたくさんの方々に支えられている当園をしっかりと守っていかなければならないと思うと同時に、自分自身もさらに経験を重ねて成長をしていかなければならないと、改めて思うことができました。

当日、ご来場くださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。今後とも、宜しくお願い致します。



總持寺祖院修行の旅

まごころホーム M・H

11月25日、26日に石川県の輪島にある、總持寺祖院に一泊二日の修行の旅に行ってきました。今年で3回目になりますが、子どもたちは毎年、とても楽しみにしている行事です。園長先生から、「今年は總持寺祖院に行きます。」と発表があり、子どもたちは、「去年行った總持寺とは何が違うの?」、「祖院ってどういうこと?」とたくさんの疑問があったので、今年行く場所のことや歴史を知っていく、事前学習から始まりました。總持寺祖院にはとても長い歴史があり、驚きました。子どもたちはとても興味津々でした。

總持寺祖院では修行僧の方が3人しかおらず、食事の配膳や片付けを私たちも協力して行いました。今までは用意されたものを頂く形だったのですが、今回、食事を配膳し、盛り付け、食べ終わったらお皿を片づけ、洗うという所までお手伝いしました。子どもたちは率先して動いてくれ、とてもスムーズだったと思います。また、晩課、朝課にも参加させてもらったり、法堂の普段お坊さんしか入ることのできない場所の畳の雑巾がけをさせてもらいました。たくさんの貴重な経験をさせてもらったことに、とても感謝しています。二日目には、輪島の朝市にも行ってきました。

最後の帰りのバスの中では、みんなが修行の旅を振り返って感想を言っています。子どもたちが順番に感想を言うのを聞き、素直な気持ちが出ていていいなと思いますし、今まで、自分で考えられなくて職員に助けられていた子が、自分で考えて気持ちを言えるようになったことがとても成長を感じます。ただ楽しい、という旅だけではなく、子どもたちにとって学びがあったり、成長できる行事になっていっていると思いました。

總持寺祖院修行の旅

あおぞらホーム M.N

11月25日、26日と石川県輪島市にある總持寺祖院の修行の旅に参加してきました。職員として行く初めての修行の旅。精進料理や座禅など話では聞いていましたが、実際に体験できると思

うと私自身ワクワクしていました。

この旅で私が強く感じたことは、子ども達の集中力です。朝と夜の2回の座禅があり、慣れない姿勢で長時間であったのにもかかわらず、どの子も黙って取り組んでいたことに驚きました。きっと、普段当たり前のようにお参りをしていることが、このような力になっているのだなと思いました。また、食事の前に唱える五観の偈も、園の生活で子ども達が唱えているところは見たことがなかったのですが、何も動じることなく大きな声で唱えている姿を見て、園の子ども達の強い力を感じました。

一泊二日の修行の旅でしたが、サービスエリアで美味しいご飯を食べたり、輪島の朝市を散策できたりと、子ども達の楽しんでいる様子を見ることができました。集中して取り組んでいる表情、率先して協力する姿、純粋に楽しんでいる表情など様々な子ども達の様子に触れられて温かい気持ちになった旅でした。



總持寺祖院修行の旅

あおぞらホーム S・S

11月25日・26日に、第3回目となる修行の旅が行われました。今回の目的地は石川県の能登半島にある、曹洞宗大本山總持寺祖院という、昨年行った横浜にある大本山總持寺の御移転前の前身となるお寺です。かつて大火に遭い、伽藍のほぼ全て(経蔵と御開山様のお墓以外)を焼失したという事で横浜に御移転したのですが、今では七堂伽藍の全てが再建しており、さらに山門も横浜の總持寺の山門に劣らずの大きさで、とても立派なお寺でした。

今回は3回目の修行の旅、そして現両本山以外のお寺という事もあり、正直少々子どもたちにとって物足りなさもあるんじゃないかなと思っていましたが、予想は完全に外れ、とてもそれぞれ実りのある修行となりました。まずは、立地の影響もあるのですが、とても当日は今季の中で一番寒く、全ての日課が寒くつらかったという事です。特に立派ではあるのですが、法堂である大祖堂での朝課では、1時間以上に渡って行われ、本当に寒さとの闘いだったかと思いますが、ほとんどの人が乗り切ることができました。とても良く頑張ったと思います。

そして、作務では今回法堂の雑巾がけをさせてもらいました。それぞれの修行道場で異なるかとは思いますが、私が修行したお寺で法堂の雑巾がけをさせてもらうために、2年間もかかりましたので、本当に貴重な体験を子どもたちはさせてもらったと思います。修行僧も少ないから、色々とお手伝いしてもらおうことがあるかもしれないと事前に伺っており、食事の配膳や洗い物の手伝いをさせてもらい、修行僧さながらな体験もさせてもらいました。子どもたちがまるで修行僧みたいに協力して声を掛け合いながら作業する様子を見てると、修行時代を思い出し微笑ましく思いました。

<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

帰りのバスでは恒例で今回の行事の感想発表が行われましたが、どの子たちもとても良い経験が出来たことを話しており、素晴らしいと思いましたし、またお坊さんになりたいと言う子もいて、本当に今回の旅は子どもたちに大きな影響を与えているし、とてもやりがいのあることだったんだと実感しました。みんな坐禅が去年と比べると思うようにできなかったことも話していました、寒くて慣れない環境の中でよく頑張ったと個人的に思います。

本当にお寺の方の人数は少なかったと思いますが、それでも温かく指導やもてなして頂いた、知客老師(受付の老師)、典座老師(料理を作る老師)、修行僧の方々に感謝申し上げたいと思います。そして3回目の修行の旅をやろうと企画して下さった園長tにも深く感謝を申し上げたいと思います。3回目を通して子どもたちの修行レベルもとても高くなっていると感じ、もっとより深く俗世と離れているお寺でも頑張れるんじゃないかなと思いました。日々の生活に今回の経験を活かしつつ、無事残り1か月過ごし、本年を気持ちよく終わられるよう生活していけたらと思います。



總持寺修行の旅 児童感想 あおぞら

11月25日、26日に修行の旅に行きました。自分は今年で3回目だったのでどのお寺に行くんだろうと思っていました。行き先は、石川県の總持寺祖院です。1日目の最初はサービスエリアで昼食を食べました。自分は高岡ブラックラーメンを食べました。とてもおいしかったです。總持寺に着いたらすぐに諸堂拝観がありました。諸堂拝観では祖院の歴史を知ることができたので良かったです。夜と朝には精進料理を食べました。夜と朝どちらもとてもおいしかったです。夕食を食べた後には、8人程度で典座寮で浄人をさせていただきました。貴重な経験ができて良かったです。夜の自由時間にはパンを食べたり、カードゲームをしたりして楽しく過ごしました。朝の作務も印象に残っています。お坊さんしか入ることのできない大間に入らせていただき雑巾掛けをしました。すごく貴重な体験ができて良かったです。座禅も印象に残っています。昨年よりも集中して取り組めたので良かったです。總持寺を出発した後はお土産を買いました。最初は輪島朝市に行ってえがらまんじゅうと肉まんを食べました。えがらまんじゅうはトンビを警戒しながら食べました。道の駅万葉の里高岡ではドラえもののグッズを買いました。メモ帳、クリアファイルとボールペンを買いました。最高の2日間になって良かったです。来年も行きたいです。

(中3 M・Aくん)

今年の修行の旅は總持寺祖院に行きました。總持寺についてからはまず、祖院についての案内が

(令和5年12月10日発行 月刊「円福」519号付録)

ありました。總持寺祖院は想像以上に大きかったです。夜寝る部屋ではトランプをしたり、すごく楽しかったです。夕食は精進料理を食べました。苦手なものもあったけど今年の修行の旅では食べることができて良かったです。夜の座禅では座禅は短くしか座れなかったけど、前よりもちゃんと座ることができてうれしかったです。2日目には過去の座禅体験の中で一番気持ちよく座ることができました。2日間を通してとても貴重な体験ができました。また来年も修行の旅へ行きたいです。

(中1 M・Hくん)

總持寺祖院修行の旅 児童感想 まごころ

わたしはそうじじにはじめて行きました。みんなでござんをしました。へやが暗くてこわかったです。だけど、さいごまでがんばれてよかったです。あと、しょうじんりょうりをたべました。あまり好きじゃなかったけどぜんぶたべました。また行きたいです。

(小三 K・M)

今年も、みんなで修行の旅に行きました。もう今年で三回目ということになりました。まず、一回目には永平寺へ、二回目には總持寺へ、今年三回目は總持寺祖院へ行きました。三回目ということもあり、大体どんなことをするのか...など予想はしていましたが、今まで行った所よりもすごく印象に残ったことが四つあります。一つ目は、近藤さんという女の子のお坊さんがいたことです。その方はとても優しく、親切な方でした。私もそういう人になりたいなと思いました。二つ目は、薬石や小食についてです。他のお寺では苦手なものがたくさんあり、苦戦していましたがこのお寺ではすべてがとってもおいしくて、お腹いっぱい食べることができました。おいしさにびっくりしました。三つ目は、晩課や朝課についてです。とても長いお経がたくさんあったけど、何も見ずに読んでいる人がいてすごいなあと思いました。毎日、お坊さんの人数が少ない中でも、ていねいに晩課や朝課をしていてびっくりしました。四つ目は、總持寺祖院の長い歴史について知れたことです。一回焼けてしまったけど、しっかりと残っていたものが三つあるということを知れてよかったです。

この修行の旅では、とても貴重な体験をさせてもらいました。自分たちが使用した食器を拭いたり、お坊さんしか入れない所のぞうきがけなど、さまざまな体験ができたことがすごくうれしかったです。このお寺は、修行僧が四人しかいなくて、とっても忙しい中、食事を作ってくれたりしてくれた人たちに感謝の気持ちを忘れないようにしたいです。この一泊二日を修行僧さんたちの一日のスケジ



<http://enpukuji-aiikuen.com/> ホームページでもご覧ください。

ユールも知りたいなあと思いました。また機会があったら聞いてみたいです。日常ではあまりできない体験ができたことに本当に感謝しています。もし、また来年のお寺に修行の旅として行くことができれば、そこでも新しい体験をたくさんしたいです。今回はありがとうございました。

(中三 N・M)

あおぞらホームだより

あおぞらホーム F・K

日中の寒さも厳しくなり、より一層体調を崩さないように気を付けなければならない時期になりました。冬の寒さによる風邪などの他にも、インフルエンザなどの感染症対策もしっかりとしながら、元気に年末年始を迎えることができればと思います。

11月11日には、創立75周年式典を行いました。子どもたちも準備を手伝ってくれて非常に素晴らしい式典を行うことができました

また11月25日、26日には、總持寺祖院への修行の旅に行きました。修行の中では、坐禅や本堂の掃除など、普段の生活では体験することのできない貴重な経験をすることができました。

本年も残り1か月となりますが、2023年が良い年だったと思えるような、年末にしていく事ができればと思います。

まごころホームだより

まごころ保育士 T・S

今年もあと1ヶ月になりました。世間ではインフルエンザが大流行しており、園でも学級閉鎖などの影響を受けています。集団生活なので、子どもも職員も感染しないように日々気をつけて過ごしているところです。そんな中、長かった2学期も終わりに近づき、中高生たちは期末テストや総合テストに追われていました。特に中学3年生の受験生たちは初めての受験に向けて準備していますが、なかなか点数が伸びず、それぞれ自分の課題や勉強への姿勢を話し合っていて考えています。正直勉強があまり好きではない様子ですが、自分の将来のために少しこらえて励んでもらえたらなあと思っています。そのために職員もみんな応援したいと思っています。また、先日児童、ホーム職員で石川県にある總持寺祖院に1泊参禅旅行に行ってきました。今年で3回目になるこの旅行ですが、子どもたちはとても楽しみにしていました。座禅や精進料理など普段体験できないことをたくさんできて、充実した2日間になったと思います。

調理室だより

栄養士兼調理員 U.S

朝の寒さが身にしみる季節がやってきました。子どもたちには、寒さに負けず、健康で元気に

(令和5年12月10日発行 月刊「円福」519号付録)

過ごしてほしいと思います。

Kさんの誕生日メニューでの話です。Kさんは愛育園に来て初めての誕生日メニューでした。調理職員はいつも以上に力が入ります。調理職員のM先生が「Kさんはプリンセスの中でシンデレラが好きなんだって！」と教えていただきました。M先生考案でオムライスがドレスに見えるようにし、オムライスの上にシンデレラの写真を飾りました。(写真をご覧ください。)Kさんはとても喜んでくれて、完食してくれました。

誕生日の日は担当の先生からお手紙をもらいます。Kさんはそのお手紙がとても嬉しかったようで、次の日には暗記して教えてくれました。健気な姿が印象的でした。どの子にとっても、1年で1日しかない誕生日という日を、食事の面から素晴らしい1日にしてあげたいと思いました。

今月の特別メニューです。

11月 4日 Kさん誕生日メニュー

オムバーグ、ポテトサラダ、フルーツパフェ

11日 Hくん誕生日メニュー

海鮮丼、茶碗蒸し、花麩のすまし汁、スーパーパフェ

18日 ステーキ大会

21日 Tくん誕生日メニュー

肉うどん、フリフリポテト、ポテトサラダ、チョコパフェ

28日 Mくん誕生日メニュー

明太クリームパスタ、鶏の唐揚げ、さけチーサラダ、モンブラン

